三保の森クリニック

/医療法人　赤枝会　三保の森クリニック
〒226-0015　横浜市緑区三保町195-1
TEL　045-922-5255　/　FAX　045-922-5581
WEB SITE　http:://www.akaedakai.com/mihonomori



今回は透析機器の消毒・洗浄について

2026年11月号

透析機器の消毒・洗浄

透析機器、特に透析液配管内は、細菌やエンドトキシン(菌の細胞壁成分の発熱物質)が繁殖しやすい環境のため、しっかりと除去することが求められます。患者さんの血液が流れる血液回路やダイアライザーはディスポーザブル(使い捨て)ですが、透析液を作成・供給する透析液供給装置と配管は、定期的な洗浄・消毒が必須です。

洗浄・消毒の目的は主に三つあります。

一つ目は、消毒によって細菌や真菌などの微生物を除去・不活化することです。二つ目は洗浄によって透析液に含まれる有機物やバイオフィルムを除去することです。三つめは炭酸カルシウム(透析液の成分から発生する結晶)を除去することです。

日常的な洗浄・消毒

日常的な洗浄・消毒は塩素系の薬剤を用いて、回路の内の細菌やエンドトキシンおよび有機物の除を行います。薬剤は主に次亜塩素酸ナトリウム溶液(濃度 0.03～0.06%程度)が用いられます。

定期的な洗浄・消毒

定期的に酸性の薬剤を用いて透析液に含まれる重炭酸イオンとカルシウムイオンが結合して析出する炭酸カルシウムを溶解・除去し、細菌の温床になることを防ぎます。薬剤は酢酸(濃度 0.1～0.3%程度)や過酢酸が使用されます。

熱水消毒

高温(80～90℃以上)の RO 水(純粋)を循環させることで、薬剤が残留するリスクなく効果的に微生物を殺菌します。

洗浄・消毒の注意点

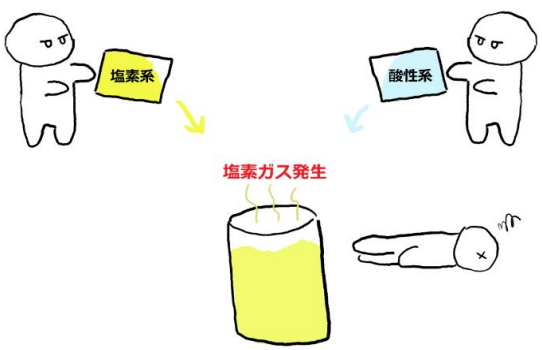
洗浄・消毒で注意することは薬液の残留を防ぐことと有害ガスの発生を防ぐことです。

○薬液残留の防止

透析配管内に消毒液がわずかでも残っていると、透析開始時に血液に触れ、溶血やアレルギー反応を引き起こす危険があります。そのため、消毒薬での洗浄後は十分にリンス(洗い流し)を行い透析開始に残留塩素濃度を測定して安全を確認します。

○有毒ガス発生の防止

洗浄に使われる次亜塩素酸ナトリウム(塩素系)と酢酸・過酢酸(酸性系)が混ざると、有毒な塩素ガスが発生し、人体に被害を及ぼします。薬液の保管、補充作業は安全管理が必須です。



11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 文化の日	4	5	6 **レントゲン**	7 立冬 **レントゲン**
8	9 **血液検査**	10 **血液検査**	11	12	13	14
15 七五三	16	17	18	19	20	21
22	23 勤労感謝の日 **血液検査**	24 **血液検査**	25	26	27	28
29	30					



MENU

当院の透析食　Pick up



【お品書き】

栗ご飯
鯖の味噌煮
付）いんげんの塩ゆで
オクラの湯葉和え
しらす入り玉子蒸し
黄桃缶
ほうじ茶



今月は秋の味覚、栗ご飯をご提供しました。
秋は色々な食材が旬を迎えますね。
栗はカリウムが多めの食材ですが、透析患者さんも旬を楽しめるよう量をコントロールしながらご提供してまいります。